

福島第一原発

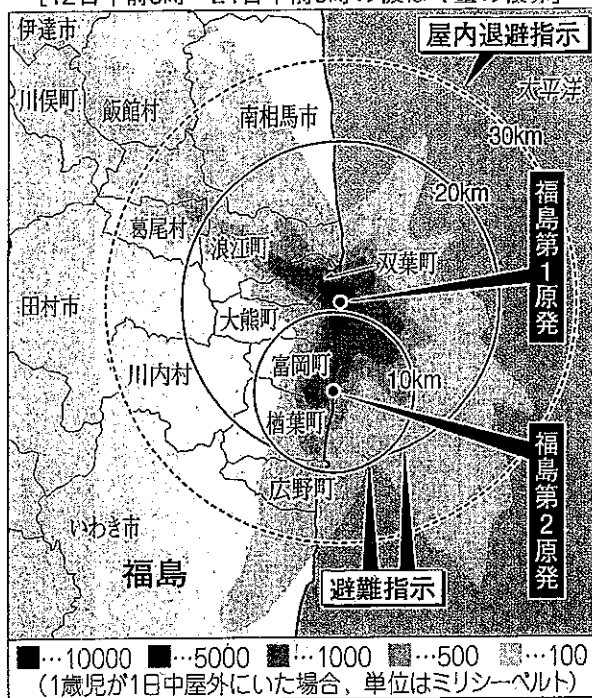
給水ポンプ運転へ準備

3号機で黒煙、作業中断

東日本大震災による福島第一原発事故で、東京電力は二十三日、外部からの電力によって1、4号機の機能を回復させる作業を続けるが、同日夕、3号機で黒煙の連絡は二十三日午後四時二十分ごろ、東電福島事務所に

東日本大震災による福島第一原発事故で、東京電力は二十三日、外部からの電力によって1、4号機の機能を回復させる作業を続けるが、同日夕、3号機で黒煙の連絡は二十三日午後四時二十分ごろ、東電福島事務所に

放射性ヨウ素の広がりを推計したシミュレーション
[12日午前6時～24日午前0時の被ばく量の積算]



枝野幸男官房長官は二十三日の記者会見で、福島第一原発を中心に放射能ヨウ素による被ばく線量について、屋内退避の範囲である三十キロ圏の外側の一部地域でも「一〇〇ミリシーベルト以上の被ばく線量となるケースがある」との試算結果を明らかにした。

事故発生後の十二日午前六時から二十四日午前零時までに、一歳

30キロ圏外でも100ミリシーベルト
放射性ヨウ素の拡散試算

直ちに避難、退避不要

これまでの気象情報を踏まえて、放射性ヨウ素による甲状腺の被ばく量を推計した。

極めて重要な結果

本県の放射線健康リスク管理アドバイザーで被ばく医療に詳しい山下俊一長崎大教授の話。試算は極めて重要な結果だ。風向き、地形のほか、雨や雪などの気象状況を勘案し、環境の汚染レベルを積み重ねて甲状腺被ばく線量を出している。試算では、原発から三十キロを超える範囲でも被ばく量が一〇〇ミリシーベルトを超える。この範囲でも今後を考えて、避難勧告の対象とするべきだ。

20～30キロ圏世帯も対象

被災者生活
再建支援制度 政府「資金援助

政府の震災現地連絡対策室長を務める吉田豪財務次官（衆院本県五区）は二十三日、福島民報社のインタビューに今回、東京電力福島

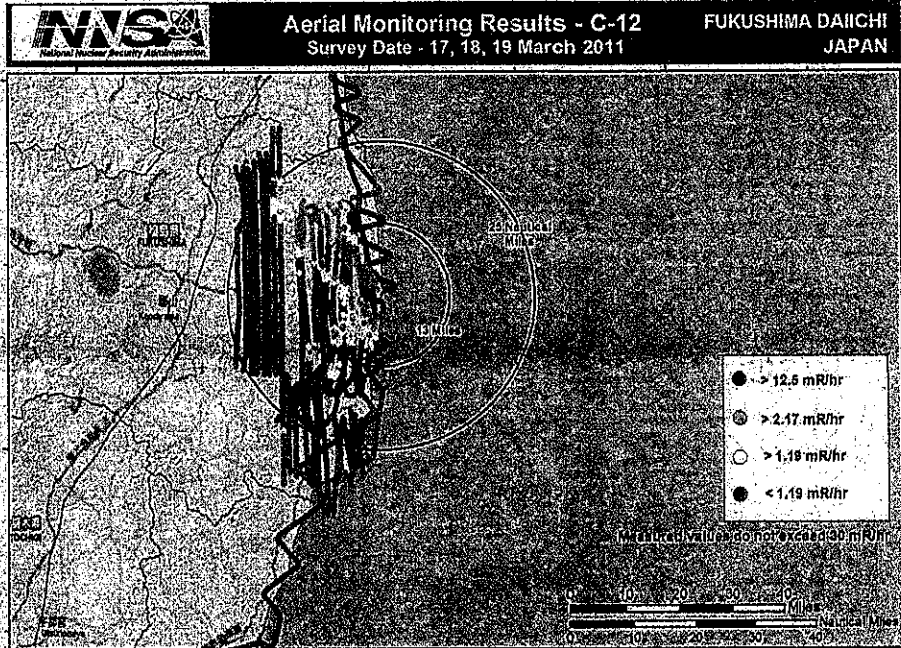
ユーに及び、住宅損壊や長期避難の世帯に現金を支給する被災者生活再建支援制度の対象に加える方向で調整していることを明らかにし



仕留止や掘削作業の進行

3/24

福島民報



Map created on 03232011 0210 JST

Nuclear Incident Team DOE NIT
Contact (202) 586-8100

福島第一原発事故で放出された放射性物質による放射線量の分布図(米エネルギー省提供)

北西25キロに高線量地域

第一原発 米エネルギー省観測

【ワシントン共同】

米エネルギー省は二十二日、福島第一原発事故で放出された放射性物質により、放射線量が高い帯状の地域が北西方向に約二十五キロ広がっているとの観測結果を発表した。

日本に派遣された同省の観測チームは、地上から一キロの範囲の放射線量を計測できる装置を航空機に取り付け、十七日から十九日にかけて原発から半径約四十五キロ以内の状況を調べた。

その結果、北西方向に約二十五キロにわたって二時間当たり二五マイクロシーベルト以上の地域が広がったという。



福島第一原発1、2号機の中央制御室内で機器のデータを記録する東電社員。23日昼(原子力安全・保安院提供)

がっていた。この線量は、八時間で一般人の年間被ばく線量限度一〇〇〇マイクロシーベルトになる高い数値。毎時三〇〇マイクロシーベルトを超えた地域はなかったという。

きのうの第一原発の写真公表

原子力安全・保安院 経済産業省原子力安全・保安院は二十三日、同院検査官が同日撮影した福島第一原発の写真を発表した。

福島第一原発の1、2号機中央制御室内で機器のデータを記録する東電社員や、セキュリティゲート付近などを写した。